



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(一財)日本友愛協会

〒112-0002 東京都文京区小石川 1-10-13 小石川文ビル2階

TEL: 03-5684-3188

FAX: 03-5684-3186

E-mail: yuai@yuaiyokukai.com

http://yuaiyokukai.com

発行人：川手正一郎

編集人：

隔月1回 10日発行

年会費

2,000円

第二十五回理事会・第七回評議員会 開催

平成二十六年事業計画・平成二十六年事業予算 承認

国際交流新規事業 日中友愛国際写真コンクール ミャンマー指導者育成プロジェクト 新監事に金沢俊弘氏(公益法人協会専務理事)を選任

三月二十七日(木)友愛サロンにおいて、第二十五回理事会(午前十時より)及び第七回評議員会(午前十一時より)が開催され、平成二十六年事業計画、平成二十六年事業予算が承認された。二十六年より開始される国際交流新事業「日中友愛国際写真コンクール」並びに「ミャンマー指導者育成プロジェクト」も、満場一致で承認された。奥住壽監事の辞任に伴い、評議員会に於いて選出が行われ金沢俊弘氏(公益法人協会専務理事)が選任された。

午前十時より開催された理事会終了後、十一時より評議員会が開催された。始めに、鳩山由紀夫理事長、及び鳩山邦夫副理事長より挨拶が行われた。

風邪のため欠席の井上和子評議員長に代わり、小川巧次評議員が議長に選出され、会は進行した。出席人数が開催の要件を

評議員会冒頭挨拶 鳩山由紀夫理事長。新プロジェクトへの理解を求め、ご審議いただきたいと挨拶



評議員会冒頭挨拶 鳩山邦夫副理事長。状況厳しいなか、皆さまの関連なご意見をと挨拶



満たしている旨報告を受け、会議の成立が宣言された。第一号議案平成二十六年事業計画及び、第二号議案平成二十六年事業予算算は、同時に協議されることとなり、理事長より報告が行われた。新規国際交流事業として「日中友愛国際写真コンクール」(インターネット)及び「ミャンマー指導者育成プロジェクト」(ミャンマー)に於ける次世代の指導者を日本に招聘し研修を実施する(二事業)についての詳細な報告がなされた。

また、十時より開催された理事会上において、本年度の第二回友愛ドイツ歌曲(リート)コンクールについて決議された共催に関する報告が行われた。本年度の同コンクールは、ドイツ歌曲普及協会設立準備委員会より、共催の申し入れがあり、理事会はこれを承認、第二回同コンクールは、日本友愛協会主催、ドイツ歌曲普及協会設立準備委員会(一般財団法人設立予定)共催で開催される。

協賛に入り、評議員会は、基本財産の一般資産組み入れに承認し、平成二十六年事業予算及び事業計画を全会一致で承認した。

第三号議案である監事の選出にあたり、本協会の収入(年会費・賛助会費)を以て賄い不足部分に於いて基本財産を一般資産に組み入れ、これを以て賄うという理事会方針が報告された。

平成二十五年度国際交流／派遣事業実施 憧れの街ウィーンでのリサイタル 木村善明

憧れの街ウィーンでのリサイタル。友愛ドイツ歌曲コンクールが終わってからずっと楽しみにしていましたが、いよいよこのリサイタルでは、大好きな作曲家カール・レーヴェのバラード作品を中心に、シューベルトとブゾーニの作品を入れ、プログラムを組みました。ドイツ歌曲が大好きで、ドイツに留学し、早七年在籍としています。今までに沢山の作品と出会い、そして、その作品の持つ力にいつも助けられてきました。

留学するまでは、日本人である自分が、ドイツ語の歌詞をどこまで理解し、どこまで感じ、どのように演奏出来るのか未知の世界でした。しかし、ドイツでの研鑽を通じて、ドイツ歌曲の世界は、誰もが感じる想いをそのまま表現している、人間味に溢れているものであることに気付かされました。

一つ一つの歌曲には、それぞれドラマがあり、それはまるで小さなオペラのように展開していきます。その世界は、照明や舞台装置もなく、ピアノと歌手の手のみで作る偽りない空間でなければなりません。そのこと自体が、大変に魅力

的でありますが、そこに向き合えば向き合うほど、自身の人間的な深さが求められ、ドイツ歌曲の世界観と自分の感性の狭間でいつも悩まされてきました。今回のプログラムを通じて、僕がどこまで成長できたかはわかりませんが、イタリア人のリートピアニスト、グレッタ・ベニーニ氏と一緒にリートの世界を作り上げる事が出来たこと、とても素晴らしい経験になりました。

彼女との合わせは数回しかなかったのですが、彼女の表現力豊かな音楽性、巧みな音色、解釈の仕方は、僕の音楽性と十二分に重なり合わせる事が出来ました。その時間は、お互いにとって楽しく、この難しいプログラムを二人で仕上げ、コンサートで演奏できた喜びは二人の財産になったと思います。

控室では、また絶対に一緒に音楽をしよう！と約束して別れました。また、満席のお客様からは、溢れんばかりの拍手を頂き、そして終演後沢山の方々から温かいお言葉をかけて頂きました。オーストリア勤労青年連盟の会長をはじめ皆さんには、沢山のおもてなしをして頂き、心地良くコンサートに臨むことが出来ました。



コンサート会場で熱唱する木村善明さん

OJABシユスラー会長(左端)等と記念撮影(中央筆者)

友愛時評

今年のGWは休日の並びが悪く「安・近・短」が旅行や行楽の主流になったという。四連休初日の三日は、全国各地の高速道路が凄まじい渋滞に見舞われたようだ。▼かくいう筆者もひどい目に遭った。普段は車もまばらな仙台以北の東北道に「一関ICまで断続渋滞六〇km」の表示を見たときには、久々のうんざり気分を味わった。▼行列や混雑を極力避ける意向の筆者が最悪の渋滞に突っ込む羽目になったのは、引越のためである。家族が新年度に合わせて転居したが、今年の三月は消費税増税前の引越・移転や家電製品などの配送のためにトラックが逼迫し、その結果大きなトラックが手配できずに積み残しの荷物が残った。その後始末をようやくGWに行ったというわけだ。▼燃料計を見ながら、高騰したガソリン価格を恨めしく思った。円安・消費税増税・原油価格の高騰のトリプルパンチで、高速道路の上ではレギュラー一七〇円という価格すら見られる。二〇〇八年の「ガソリン国会」を経て復活した暫定税率には、1L当たり一六〇円を超える場合は特例税率の適用を停止する「トリガー条項」が設けられたが、既にその水準は突破し、今後価格も下がりそうにない。▼折しも高速道路の割引も大幅に縮小され、六月末で休日割引が五〇%から三〇%に減額される。このGWの渋滞は休日割引の「駆け込み需要」も一因かもしれない。▼民主党政権時に打ち出された高速道路無料化やガソリン税暫定税率廃止を懐かしく思い起こしながら、ひたすら渋滞に耐える庶民生活である。(ヒゲ)

第二十五次友愛植林訪中団六日間の日程を終了

鳩山由紀夫理事長 北京全青連本部・錦州市植林現場へ

「継続は力なり」と感想を 次世代への継続・緑の森を信じて

日本友愛協会が行っている植林活動は、今回二十五次訪中団を派遣、一つの節目を迎えた。その記念すべき二十五次訪中団に、鳩山由紀夫理事長が名誉団長として参加された。四月十八日(金)羽田を発ち、北京の中華全国青年連合会本部訪問を始め、遼寧省錦州市の現場での植林活動と、移動と過密なスケジュールをこなし、多くの成果を手に帰国された。

友愛植林訪中団はその後山西省臨汾市に移動し、植林活動を続け、二十三日無事帰国した。今回の訪中団は総勢十名、四名の大学生から参加の感想文が寄せられた。鳩山由紀夫名誉団長、川手正一郎団長の文と共にご紹介し、第二十五次友愛植林訪中団のご報告としたい。

第二十五次友愛植林訪中団：鳩山由紀夫名誉団長、川手正一郎団長、戸澤英典副団長、田中佐知子さん、李慶達さん、橋本誠浩さん、川手祥右さん、高橋佳大さん、原俊子さん、羽中田元美(事務局)

植林訪中団に参加して

第二十五次植林訪中団 名誉団長 鳩山由紀夫

日本友愛協会がいわゆる小渕基金を活用して、中華全国青年連合会(全青連)と協力して行っている植林活動に名誉団長として初めて参加した。

初参加の私が言うのもおかしいのだが、継続は力なりとつくづく感じた。言う



北京の全青連本部を訪問。中華全国青年連合会/賀軍科主席(写真右端)より感謝状を授与された



遼寧省錦州市の植林現場で挨拶する鳩山由紀夫名誉団長。「二イハオ」との呼びかけに大きな拍手が



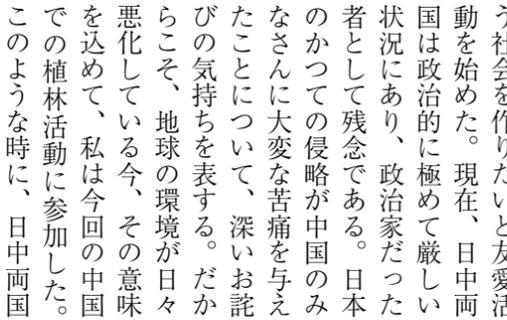
名誉団長は、スコップを手に、目標十本を目指して植樹開始。川手団長と力を合わせて共同作業



植樹したポプラに、想いを込めて水をやる。大きく育ち、緑の林となる日を夢みて信じて



ボランティアで参加の陸軍学校の少年達とも一緒に植樹。時間の最後まで頑張って計七本を達成



歓迎の宴で挨拶する鳩山由紀夫名誉団長。「ここ錦州に来て良かった」と植林事業への想いを



宴の席で、現地スタッフと杯を交わし交流。その気さくな人柄に、全ての人が魅了された



遼寧省錦州市現場に建てられた記念碑。「母なる河を守る」「日本友愛協会」の文字も刻まれている

までもないが、信頼関係は一日で築かれるものではない。この事業は二〇〇年からスタートしたが、川手正一郎団長を筆頭に友愛協会のメンバーと全青連の環境保護に関わるみなさんが、毎年植林事業に協力して汗をかいてきたことよって、両者の間に厚い友情が生まれ、信頼関係が構築されてきていたことはとても素晴らしいことでも素晴らしいことでも

た。今回までの二十四回の中国各地での日中友好の植林活動で、四四二万本の木が植えられ、三〇七五ヘクタールの土地の緑化が進められたことが信頼の何よりの証である。

初日は北京の全青連本部を訪れ、賀軍科主席と会談した。彼は九年の間にトップに上り詰めた何と何が、先輩の李克強首相のような鋭いまなざしの青年と

た。至れり尽くせりの配慮に感謝しながら、マオタイ酒を何度も酌み交わした。翌日は新幹線で錦州へと向かった。日本では中国の新幹線に対して酷評がなされてきたが、確かに椅子などの内装は日本の方が優れているが、横揺れもなく時速二九二キロのスピードが出ていたのだから快適であった。

「母なる河を守る行動」日中青年生態緑化モデル林」プロジェクトの起工式が始まった。そこで私は「二イハオ！」と呼びかけたら、青年たちから温かい反応があった。続けて、お集まりの方々に感謝の思いを伝えたあと、「祖父一郎は、六〇年余り前に、相互に尊重し、理解し、助け合う社会を作りたいと友愛活動を始めた。現在、日中両国は政治的に極めて厳しい状況にあり、政治家だった者として残念である。日本のかつての侵略が中国のみならず大変な苦痛を与えたことについて、深いお詫びの気持ちを表す。だからこそ、地球の環境が日々悪化している今、その意味を込めて、私は今回の中国での植林活動に参加した。このような時に、日中両国

の間でいろいろな民間交流活動を行うことには大変な意義がある。友愛の精神には国境はない。今回のような植林活動が両国民の間のわだかまりを解消することに役立つことを願う」という趣旨のことを述べた。

その後、大きな石で作られた記念碑の除幕式を行ってから、全員で植樹を行った。ボランティアの青年たちも一所懸命に植樹していた。若者たちが植林活動に汗を流すことによって、環境を守ることの重要性を自然と身に付けるようになることは素晴らしいと感じた。

私は王明玉書記との間に、一〇本の植樹を約束していたが、時間の関係もあり、七本で打ち切りとなってしまった。そこで、ホテルに戻った歓迎宴の席上で、三本残してしまっただけ来年も来ますと約束をした。みんな喜んでくれた。そして、来年来るときには、日本の若者たちをもっと連れてこようとの心の中で誓った。

全青連本部入り口に掲げられた歓迎の電光掲示板。この熱烈歓迎から始まって終始熱烈歓迎を受けた

全青連本部入り口に掲げられた歓迎の電光掲示板。この熱烈歓迎から始まって終始熱烈歓迎を受けた

心と心に国境はない

第二十五次植林訪中団
団長 川手正一郎

二〇一一年六月、二〇〇〇年から始まった植林事業のその後の状況について知りたいと思いきや全青連にお願いし、第一次、第五次の植林地を訪ねました。

当時、中国の皆さんと一緒に植えたユーカリやポプラ、その他の樹木を植林地で実見し、荒れた原野が緑の大地に一変した光景には、唖然とするばかりでした。そして植林事業の素晴らしさと成長した立派な樹木を前にしての感動は今でも忘れられません。

殆どの木が太さ二〇〜三〇センチ、高さ十五m以上。思わず幹に抱きつき耳をあて、芯から生ずる音色に我を忘れて聴き入りました。梢から伝わる豊かな響きはあたたかみも兼ね、感謝の念を表しているように聞え感無量でした。



波となり、植林時の砂の荒地からは想像もつかない見事な森に変わっていました。第二回の植林地広西チワン族自治区の来賓県では、大きな山全体が緑に覆われ、記憶とは全く違う景色となり、驚きと喜びの連続であり植林事業の冥利を味わいました。



さて、昨年三月の湖北省孝感市の植林参加を最後に小生は思わぬ病に取り憑かれ、昨年六月と本年三月の植林に行けず残念でしたが、この四月の遼寧省と山西省についてはなんとすも出席したいと思いい、治療に専念しました。



今回の植林に際しましては、三年前の植林地視察の感動を胸に苗木一本一本が中国の大地にしっかりと根付くよう心を込めました。



植林活動に参加しました
東北大学経済学部三年 李慶達

今年始めて日本友愛協会の植林訪中団の一員として中国での植林活動に参加しました。そして、中国人として日本の訪中団に加わって自分の国を訪問すると言う面白い体験ができ、更には、鳩山由紀夫先生、川手団長など素晴らしい人と出会えて、多くのことを学び、ひとまわり人間の器が大きくなった気がします。(実際、食べ過ぎて若干体重も増えました)

真の友好は両国民のひとり一人の心の中にある。心と心に国境はない。今般お会いした中国のすべての人々の心に友好の明かりが灯ることを祈願し感想と致します。

尚、全青連の洪桂梅、王希宏、羊強振の方々には全日程を通して大変お世話になり、訪中団を代表し、感謝と御礼を申し上げます。



年から始まり十四年間三〇〇ヘクタール余り、四百四十二万本の木を植えた事を知り大変感心しました。

そして、何より高齢でありながら十四年で二十数回の植林活動に参加し、今回は癌を患いながらも植林活動に参加した川手団長の、人格と生き様に大変深い感銘を受けました。自分も木を植えながら、――十年後いや百年後に緑の森となっていることを夢に見ながら、いや、夢に見るというよりそれに向かっていくのである。すぐに結果が出るものではない。しかし、緑の森となることを信じて、きつと森となつて、日中友好もこの森の木々のように地に根付き山々を緑いっばいにして、子々孫々の世代までずっと続いている――そんなことを考えながらスコップを動かして続けていました。

もろろん、植樹だけでは苗木は育たないでしょう。きつと、現地の人たちが大切に育ててくれることでしか、現地の小さな草花も育たないでしょう。李さんの言う「夜の小さな勉強会」。名譽団長を囲んで、様々な話題に花が咲いた

今回の日本友愛協会と中華全国青年連合会の共同主催の山西省臨汾市での記念式典。この日から後ろに迫る山々の頂上まで、植樹が進み緑の山となる



よう。そしてこのことが細くとも強い日中友好につながっていることを願います。

もう一つの感想は、通訳を聞いて、自分も通訳をしていて気付いた事で、日本語や中国語が理解できてもその両方の古典や文化についての教養が足りなければ、元の言語の魅力や完璧に伝える事が出来ないと感じました。自分の新しい課題として、日中の古典を読む事を決めました。

最後に、苗木が大きく育った頃にまた現地を見に行きたいと思っています。みんなで植林した苗木が立派に育っていることを信じたい。

日本と中国
東北大学経済学部三年 (北京精華大学留学中) 橋本 誠浩



催で行われた植林活動に参加したことは、私が日本と中国の友好について、どのようにあるべきものなのかというのを改めて考える機会になりました。

鳩山由紀夫理事長は、錦州市の起工式で「環境問題に国境は関係ない」とおっしゃいました。確かにその通りだと、私は以前からの考えを持っていました。しかし、今回このような形で実際に日本人と中国人がともに環境保護活動を行うところに参加させていただいたのは初めての経験でした。現在北京に留学中の私は、中国の水や空気をめぐる環境問題の深刻さについて肌身をもって感じていました。

私のある中国人の友人は、これらの問題をなんとかしたいという想いから、環境工学について学ぶために日本への留学を決定しました。そのような中で、私にできることは一体何なのか。こういったことを考えていた時に紹介していた

臨汾市の記念碑を囲んで団員一同記念撮影。十年後には、この碑が見えなくなる程に木が生い茂る



だいた今回の植林活動は、中国の環境問題について中国の皆様とともに考え、問題に取り組みむという意味でも貴重な体験となりました。さらには、中国の皆様とともに汗を流しながら、同じ問題に取り組むことのできたと思います。

川手正一郎団長は、この活動が始まった時からすべての活動に参加なさっています。十数年間も継続して参加しているために、中国人の友人と強い絆で結ばれています。それを目の当たりにした私は、たとえ国が違つたとしても、川手正一郎団長のようにいくつになつても中国の方とお互いを信頼し、友好を保てる

と確信できました。今回の活動で交流した中国の皆様や留学中に仲良くなった中国の友人との関係を日本に帰国した後も一生大切にし、一人の青年として、今後の日中友好を担う一人になることができたいと思います。

この写真では解り難いが、高さ五〇センチ程の苗木を植えた。既に植樹されている苗木もあり時間差植樹



私から見た中国
城西大学経営学部三年

高橋 佳大

日本友愛協会の実施する植林活動に、私は大学生として参加しました。中国の植林活動は二回目になりました。——海外に行ったのも、この二回だけになりました。

日本とは異なる文化の違いなどを身近に感じるとともに、多くの貴重な体験が自分を大きく変え、成長できたと思います。

中国に行く前は、政治的問題や環境問題などがテレビなどのメディアによく取り上げられており、不安が多かったのも事実でした。

しかし実際に行ってみて感じたのはそのようなことはなく、緑が生い茂る地域が目立ち、協力的な人も多く印象は大分変わりました。

「外の世界を見なければ、新しい自分の発見、可能性を見つけることはできない」ということを実感して



高橋佳大さん(左)と川手祥右さん、実は従兄弟同士。同学年で大の仲良し、話は尽きない

とても考えさせられました。

日本友愛協会はこれまで

に幾度も植林活動を実施しており、二〇〇〇年に植林をした場所が、今では森になっていくことを祖父の話から知り、感銘を受け、私もできる限りの協力をしたいと思ったことが参加の理由でもあります。

今回は前回の倍以上の人数で、多くのポプラの苗木を植えることができました。

日中両国の参加者全員が協力しあい、現地では村の人たちをはじめ地元の子生など、数多くのボランティアの人たちと植林活動を通して日中の交流がはかれました。環境保護だけでなく、日中友好の面でも、とても有意義な活動が行えたのではないかと思います。

私が本活動を通じたことは、一人では微力であっても、両国民が立ち上がり一致協力することでどのような問題も解決できるという事。

言葉は通じないかもしれないが、言葉よりも大事な心は通じ合えるということ



マスコミ各社の取材。二人は質問責めに合った。人民日報にも友愛植林訪中団の記事が掲載された

言葉は通じないかもしれないが、言葉よりも大事な心は通じ合えるということ

今回の植林活動は、日本友愛協会の方々や中華全国青年連合会(全青連)の方々の尽力により全てが順調にすすみ、五泊六日の植林活動を無事終えることができ、関係者の皆様に対して改めて感謝申し上げます。

日本友愛協会の方々や全青連の方々にはご苦労をおかけしたとは思いますが、また機会があれば再び現地を訪れ、大きく育ったポプラの森の姿を楽しみに是非参加したいと考えております。

こういった活動が生活を豊かにし、将来、森林を引き継いでゆく子供たちに夢と教育、機会を与えてくれます。

自然環境保護を共通の合言葉とした、両国民のさらなる交流発展になることを願っています。

植林現場に向かうと現地の人々が集まっており、祖父はみなさんに「植林活動は木を育てるだけでなく日中友好を育てることだ」とあいさつしましたが、私は最初どういう意味か分から

ず、ただただ木を植えました。そして日本に帰国し植林活動を振り返ってみると、



名誉団長のたつての希望で急遽訪問。向こうに見える島に、干潮で歩いて渡れるという貴重な体験を

植林訪中を通じて
東京工芸大学工学部建築学科三年

川手 祥右

私が植林活動を始めたきっかけは祖父に誘われたからです。

最初の植林活動に参加した時、私はまだ高校生で中国には興味は無かったです。むしろ嫌なイメージが強かったのですが、私は旅が好きなので観光感覚で行こうと決めました。

中国に着くと中華全国青年連合会(全青連)の人たちが歓迎してくれ、中国のイメージががらりと変わりました。

中国は反日意識が強いと思っていました。日中友好を望んでいる中国人もいると分かりました。

植林現場に向かうと現地の人々が集まっており、祖父はみなさんに「植林活動は木を育てるだけでなく日中友好を育てることだ」とあいさつしましたが、私は最初どういう意味か分から



島の手前にある真水の湧く井戸。今もこんなと澄んだ水を湛えている。覗くと鏡のような水面が

なにも中国を知ろうとしません。

まさに私が植林活動に行く前の状態です。

植林活動という木を植える事だけを思い浮かべますが、実際に体験してみると植林活動をするのに、色んな人と交流があるのに気づきました。

木を植えるだけではなく、全青連の人たちや現地の人たちと交流し木を植えて、それが次第に日中友好に繋がって成長していくのではないかと思います。

そして一回目の植林を終えてまた交流したい!と思うようになり、何回も植林に行くうちに中国への親近感が少しずつ上がっていききました。

いまでは私の大学の中国人の留学生とも交流を取り、情報交換をし、さらには中国語にも興味を持ち始めました。

今日の日中両国の関係はよくありません。また私の周りの多くの学生は中国に興味もなく、同じ東アジア



小さく見える島を背景に記念撮影。潮の香りに包まれて、忙中閑有り、ちよつとしたお楽しみ!

新幹線の北京南駅の駅長さん(左から四人目)を囲んで。女性進出が進んでいるとしきりに感心

そして今後日中友好が実現するように願っています。

お待たせしております。内容は、ポラノエーション、何でも構いません。詳しくは事務局までお問い合わせください。掲載ご希望の月がある場合は、2ヶ月前に原稿が届くようお願いします。手書き原稿・データ原稿(白紙)

「知行合一」「致知」(王陽明)。そんな言葉を思い出しながら、チャレンジこそ成長への道と、遅滞ながら誓を新たにしたい。(K)

◆今月号は植林特集号となりました。十数年二十五回に亘り、訪中団を派遣し続けてきた「友愛植林活動」に、理事長が参加、現地に訪れ皆と一緒にスコップを握りその全てをご覧いただきました。理事長の文章のなかにも「継続は力なり」と言う言葉をいただきました!

「被災地のいま 見て聞いて心が疼く三年目」

「横浜港 エリザベス巨体をゆすり入港し」

「宇津井健の死 ト書かないドラマ演じた最晩年」

「六戦目にして 最速の世界チャンプのお通りだ」

「全線開通 三陸を表舞台に引き上げる 来世で」

「富徳と実始める食談義」

中国の誇る新幹線。北京南駅から錦州市駅まで乗車。乗り心地もスピードも、申し分ない

時事川柳

服部迪夫 作

「時事川柳研究会」会長

— 遠藤関一矢

稀勢の里さんばら髪にしてやられ

— 被災地のいま

見て聞いて心が疼く三年目

— 横浜港

エリザベス巨体をゆすり入港し

— 宇津井健の死

ト書かないドラマ演じた最晩年

— 六戦目にして

最速の世界チャンプのお通りだ

— 全線開通

三陸を表舞台に引き上げる

— 来世で

富徳と実始める食談義

紙『友愛』原稿募集

皆様のご投稿をお待ちしております。内容は、ポラノエーション、何でも構いません。詳しくは事務局までお問い合わせください。掲載ご希望の月がある場合は、2ヶ月前に原稿が届くようお願いします。手書き原稿・データ原稿(白紙)

機関紙『友愛』原稿募集

皆様のご投稿をお待ちしております。内容は、ポラノエーション、何でも構いません。詳しくは事務局までお問い合わせください。掲載ご希望の月がある場合は、2ヶ月前に原稿が届くようお願いします。手書き原稿・データ原稿(白紙)

桜前線が北上し、四月二十八日日本州を通過。北海道帯広市に達したとのニュース。「あれを見よ 深山の桜咲きにけり 真心つくせ人知らずとも」(箱根峠の碑)。この時節、いつも思ひ出す歌。

これからいよいよ緑と青空の季節。五月という時季は動物も植物も最もイキイキし、人間もチャレンジ精神横溢。躍進の時でもある。「知行合一」「致知」(王陽明)。そんな言葉を思い出しながら、チャレンジこそ成長への道と、遅滞ながら誓を新たにしたい。(K)

◆今月号は植林特集号となりました。十数年二十五回に亘り、訪中団を派遣し続けてきた「友愛植林活動」に、理事長が参加、現地に訪れ皆と一緒にスコップを握りその全てをご覧いただきました。理事長の文章のなかにも「継続は力なり」と言う言葉をいただきました!

「被災地のいま 見て聞いて心が疼く三年目」

「横浜港 エリザベス巨体をゆすり入港し

「宇津井健の死 ト書かないドラマ演じた最晩年

「六戦目にして 最速の世界チャンプのお通りだ

「全線開通 三陸を表舞台に引き上げる

「来世で 富徳と実始める食談義」